

# ICTと映像教材の活用による子ども向け次世代環境教育の推進



この事業は  
「国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）」  
が推奨する事業として認定を受けています。

団体名：株式会社 TREE

連携主体：企業（地域金融機関等）、地方自治体、教育委員会、小中学校、地域NPO

## 事業の概要

本プロジェクトは、ICT（情報通信技術）と映像教材を活用し、講師と子どもたちが複数本の映像を見ながら対話型で進める次世代環境教育プログラムです。「気付き 理解 行動」のプロセスを映像体験型カリキュラムに盛り込んだファシリテーション形式の出前授業を推進しています。

今後は、株式会社TREEの運営する環境メディア「Green TV Japan」が保有する教育カリキュラムや映像教材を活用した環境教育プログラムをクラウドで共有し、様々なセクターの方々との協働により、地域を問わず日本全国で実践できるように展開を進めていきます。

関連する愛知目標 1

URL <http://www.tree.vc/> <http://www.japangreen.tv/>



## 認定のポイント

### 多様な主体の連携

地域金融機関などの企業、地方自治体、教育委員会、小中学校の他、地域のNPO団体等、多岐に渡るセクターと連携しています。

### 取組の重要性

ICTと映像教材を効果的に活用した環境教育プログラムは、生物多様性に関する理解を深めるなど、環境教育に対して具体的な効果が期待されます。

### 取組の広報の効果

参加者の増加により環境教育の向上が期待されるほか、映像教材等を活用した環境教育プログラムには先進性があるため、新たな取組を誘発する波及効果が期待されます。

# 動物園・水族館種保存事業



この事業は  
「国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）」  
が推奨する事業として認定を受けています。

団体名：公益社団法人日本動物園水族館協会

連携主体：公立動物園・水族館、私立動物園・水族館、生息地保護団体、環境省、文化庁

## 事業の概要

本プロジェクトは、絶滅危惧種の絶滅・減少を防止するため、生息域外において飼育下で積極的に保全繁殖を進めるプロジェクトです。日本の動物園・水族館が連携して動物個体の血統登録を行い、動物園・水族館間で動物を移動させペアをつくり繁殖の成果を高めます。

今後は、生息地での野生復帰も視野に入れて、生息地保護団体と動物園・水族館が連携した保全繁殖を目指します。

関連する愛知目標 1 2

URL <http://www.jaza.jp/>



## 認定のポイント

### 多様な主体の連携

動物園・水族館、生息地保護団体、行政など、多岐に渡るセクターが連携しているとともに、全国的に活動を展開するなど広域性があります。

### 取組の重要性

希少動物の生息域外での保全繁殖により、生物多様性の保全に対して具体的な効果が期待されるほか、種ごとに調整園・担当者を決めておくなど、事業を継続実施できる仕組みが整備されています。

### 取組の広報の効果

絶滅危惧種の施設内保護という動物園・水族館が担ってきた生物多様性の保全上重要な活動に対する理解・協力が広がるなど、事業効果のさらなる向上が期待されます。

# いのちの博物館実現プロジェクト



この事業は  
「国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）」  
が推奨する事業として認定を受けています。

団体名：公益社団法人日本動物園水族館協会

連携主体：公立動物園・水族館、私立動物園・水族館、大学、NPO

## 事業の概要

本プロジェクトは、絶滅危惧種をはじめ多様な生物の保全繁殖やその必要性の啓発を行っている動物園・水族館を「いのちの博物館」ととらえ、大学、NPOと連携しながら、より効果ある活動を考えるシンポジウムを全国展開し、市民の生物多様性への理解と支援に結び付けます。

今後は、動物園・水族館、大学のほか、行政、より多くのNPOと連携を深めながら、全国5つの都市で、シンポジウムを開催します。

関連する愛知目標 1、12

URL <http://www.jaza.jp/>



## 認定のポイント

### 多様な主体の連携

動物園・水族館、大学、NPOなど、多岐に渡るセクターが連携しているとともに、活動が複数の都道府県にまたがるなど広域性があります。

### 取組の重要性

絶滅の恐れのある動物の保全に関する取組について広報・普及啓発を行うことにより、生物多様性の保全に対する理解促進、支援増加などの効果が期待されます。

### 取組の広報の効果

絶滅危惧種の施設内保護という動物園・水族館が担ってきた生物多様性の保全上重要な活動に対する理解・協力が広がるなど、事業効果のさらなる向上が期待されます。

# Come Back Goose

## -甦れシジュウカラガン!日本の空に-

団体名：日本雁を保護する会

連携主体：仙台市八木山動物公園、ロシア科学アカデミーカムチャッカ太平洋地理学研究所、米国魚類野生生物局



この事業は  
「国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）」  
が推奨する事業として認定を受けています。

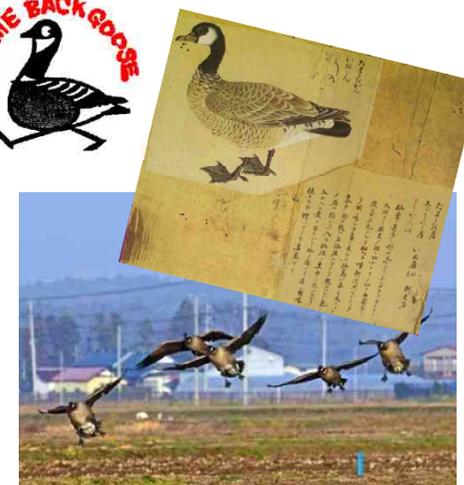
### 事業の概要

本プロジェクトは、毎年群れで渡来していたシジュウカラガンの羽数回復をめざし、米国魚類野生生物局の支援を得て、八木山動物公園、ロシア科学アカデミーと共同でアジアの群れ復元に1983年に着手しています。最近では羽数が漸増し、今年度初めて400羽を超えました。

今後は、群れの維持に最低限必要な1,000羽まで増えるよう、モニタリングとふゆみずたんぼ（冬期湛水水田）等の取組を通じて生息地の保全と復元を継続し、生物多様性の向上への貢献を目指します。

関連する愛知目標 1、9、12

URL [http://www.city.sendai.jp/kensetsu/yagiyama/sj\\_gan/index.html](http://www.city.sendai.jp/kensetsu/yagiyama/sj_gan/index.html)



### 認定のポイント

多様な主体の連携

動物園、NPO、海外研究機関など、複数のセクターと連携しています。

取組の重要性

かつては日本へ多数飛来していたシジュウカラガンの放鳥活動を、ふゆみずたんぼと組み合わせるなど効果的に行っており、生物多様性の保全に対して具体的な効果が期待されます。

取組の広報の効果

ふゆみずたんぼへの協力農家の拡大など事業効果のさらなる向上が期待されるほか、他の地域でも同様の活動が行われるようになることが期待されます。

# 生命のにぎわい調査団等の普及啓発活動



この事業は  
「国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）」  
が推奨する事業として認定を受けています。

団体名：千葉県生物多様性センター

連携主体：県民、博物館、企業、団体、市町村、大学

## 事業の概要

本プロジェクトは、「生物多様性ちば県戦略」を推進するために、県民参加型の生物モニタリング「生命（いのち）のにぎわい調査団」や企業向けセミナー、連携6大学との調査研究、市町村での巡回展示及び啓発図書の発行等を通して、幅広く生物多様性の普及啓発を展開しています。

今後は、多様な主体との連携をさらに進め、また、主体間の協働やネットワークを強化するとともに、モニタリング結果を生物多様性地理情報システムGIS並びに普及啓発に活用するなど、活動の充実を目指していきます。

関連する愛知目標 1、9、12、19

URL <http://www.bdcchiba.jp/>



## 認定のポイント

### 多様な主体の連携

県民（調査団員）、県立中央博物館、地元企業や大学（江戸川大学、千葉大学、東京大学、東京海洋大学、東京情報大学、東邦大学）など、多岐にわたるセクターと連携しています。

### 取組の重要性

普及啓発活動や市民参加型モニタリングにより、生物多様性の保全に具体的な効果が期待されるほか、博物館研究員の協力や大学との連携研究など、事業を継続実施できる仕組みが整備されています。

### 取組の広報の効果

調査団員の増加や大学・企業との連携など事業効果のさらなる向上が期待されるほか、他の地域でも同様の市民参加型調査が行われるようになることや大学等との保全活動の連携などが期待されます。

# 副業型林業による「さんむ木の駅プロジェクト」



この事業は  
「国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）」  
が推奨する事業として認定を受けています。

団体名：NPO法人元気森守隊

連携主体：株式会社花島産業、千葉県山武市

## 事業の概要

本プロジェクトは、荒廃した森林の再生を目指し、地域に住む人の力により継続的な管理・運営を行っています。森林整備に必要な力を地域住民に求め、副業型林業家として育成するとともに、森林資源の付加価値を向上させる消費の仕組みを構築していく活動を行っています。

今後は、森林資源のカスケード利用（多段階利用）を進めて経済的メリットを高めること、所有者と活動者をつなげるマッチング、地域活性化につながる地域通貨の導入、地域で消費するエネルギー資源としての利活用について、積極的な検討・導入・連携を推進していきます。

関連する愛知目標 7、14

URL <http://www.genkimorimoritai.com/>



## 認定のポイント

### 多様な主体の連携

企業、NPO、地元自治体など、多岐に渡るセクターと連携しています。

### 取組の重要性

森林の適正な間伐により生物多様性の持続可能な利用に対して具体的な効果が期待されるほか、間伐推進のための買い取りなど事業を継続実施できる仕組みが整備されています。

### 取組の広報の効果

間伐材をバイオマス資源として活用するとともに、地域ブランドとして再発掘するなど、他の地域でも同様の活動が行われるようになることが期待されます。

# トキと暮らす島 生物多様性佐渡戦略

団体名：佐渡市

連携主体：農家、市民、大学、関係機関、環境省、農林水産省、国土交通省、新潟県



この事業は「国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）」が推奨する事業として認定を受けています。

## 事業の概要

本プロジェクトは、佐渡市の目指すべき生物多様性の保全・利用の将来像を明確化し、将来像の実現に向けた具体的な施策を定めると共に、着実に施策を実行していくための各主体の役割や、戦略の推進体制の構築を図っています。

今後は、本戦略に基づき、市民・地域・関係団体等と一体となって、持続可能な生物多様性の保全・利用に関するさまざまな施策の推進を図り、市の活性化を目指していきます。

関連する愛知目標 1、5、6、7、9、11、12、18

URL <http://www.city.sado.niigata.jp/admin/vision/biodiversity12/pdf.shtml>



## 認定のポイント

### 多様な主体の連携

地域農家、市民、大学、行政など、多岐に渡るセクターが連携しています。

### 取組の重要性

佐渡版レッドデータブック作成や認証米の取組など、生物多様性の保全及び持続可能な利用に対して具体的な効果が期待されるほか、情報共有の場など事業を継続実施できる仕組みが整備されています。

### 取組の広報の効果

トキの野生復帰の取組等を核に生物多様性を活かした地域づくりを行う象徴的な取組として、他の地域への普及が期待されるほか、新たな取り組みを誘発する波及効果が期待されます。

# 伊予農希少植物保全プロジェクト



この事業は  
「国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）」  
が推奨する事業として認定を受けています。

団体名：伊予農業高等学校 伊予農希少植物群保全プロジェクトチーム

連携主体：重信川の自然を育む会（NPO、行政、大学生）、松山市、小学校

## 事業の概要

本プロジェクトは、公共工事の環境政策に関わり、重信川河口ヨシ原再生事業でオオヨシキリの飛来するヨシ原の再生に取り組むほか、松山市和気浜後背湿地では、保全ゾーンの作成等希少種の一時避難や再移植などの環境への影響の緩和手段（mitigation）を行っています。

今後は、設置しているWebカメラを駆使して汽水域のモニタリングが行えるLIVE画像を引き続き提供し、また生態系に侵入した外来植物の駆除を行いながら、希少種の保全を児童・生徒、地域住民に広報します。

関連する愛知目標 1、9、12、13、14、19

URL <http://iyo-ah.esnet.ed.jp/>



## 認定のポイント

### 多様な主体の連携

NPO、行政、大学生など、複数のセクターと連携しています。

### 取組の重要性

希少野生動植物の保全やヨシ原再生など、生物多様性の保全に対して具体的な効果が期待されるほか、協議会の設置など事業を継続実施できる仕組みが整備されています。

### 取組の広報の効果

高校生の手による地域の自然環境の保全の取組など、他の地域でも同様の活動が行われるようになることが期待されます。

# 綾の照葉樹林プロジェクト



この事業は  
「国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）」  
が推奨する事業として認定を受けています。

団体名：てるはの森の会

連携主体：九州森林管理局、宮崎県、綾町、公益財団法人日本自然保護協会

## 事業の概要

本プロジェクト（正式名称：綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画）は、国内最大級の照葉樹林を保護し、二次林や人工林の照葉樹自然林への復元及び自然共生の地域づくりの支援を目的に活動しています。2012年7月、プロジェクトエリアを含めた約1万4,500haが、綾ユネスコエコパークに正式に登録されました。

今後は、自然と人とのふれあい調査や、市民参加の間伐作業、林床調査等を行いつつ、持続可能な地域づくりを目指します。

関連する愛知目標 5

URL <http://teruhanomori.com/>



ボランティアによる間伐作業

## 認定のポイント

### 多様な主体の連携

国、県、町、全国NGO、地域NPOが協定を結び、一体となってプロジェクトを推進するなど、多岐に渡るセクターと連携しています。

### 取組の重要性

国内最大級の照葉樹林の保護や復元等より、生物多様性の保全に対して具体的な効果が期待されるほか、協定を締結するなど事業を継続実施できる仕組みが整備されています。

### 取組の広報の効果

参加者の増加により事業効果のさらなる向上が期待されるほか、多岐に渡るセクターによる協定の締結の事例は、他の地域への普及や、新たな取組を誘発する波及効果が期待されます。

# 海外希少野生動物保全支援活動



この事業は  
「国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）」  
が推奨する事業として認定を受けています。

団体名：認定NPO法人トラ・ゾウ保護基金

連携主体：Wildlife Trust India（海外NGO）、ケニア野生生物公社（海外自然保護行政機関）

## 事業の概要

本プロジェクトは、野生の生きものの立場に立ってその世界を守り、生物多様性を保全すること、そのことを通じて人の豊かな自然環境を守ることをめざしています。具体的な活動として、トラとゾウの生息地における保全活動支援を中心とした事業を展開しています。

今後は、保護区やコリドーに接して暮らす地域住民による伐採など森林生態系に与えるダメージを減らすための生活改善プロジェクトの実施、象牙目的の密猟を防止するためのパトロール支援、世界の象牙需要を減らすための働きかけを行っていきます。

関連する愛知目標 1、5、12

URL <http://www.jtef.jp/>



## 認定のポイント

### 多様な主体の連携

海外のNGOや自治体など、複数のセクターと連携しています。

### 取組の重要性

世界的に絶滅の恐れのある野生動物の保全活動やその支援を行う取組は、生物多様性の保全に対して具体的な効果が期待されます。

### 取組の広報の効果

海外の希少野生動物の保全活動に対する参加者や支援者の増大など、事業効果のさらなる向上が期待されます。